

## 令和4年8月教育委員会定例会議事録（要旨）

- 1 開催日時 令和4年8月5日（金）  
開会：午前10時 閉会：午前10時25分
- 2 開催場所 災害対策本部室
- 3 会議次第  
○6月定例会議事録承認  
○教育長報告  
○議案第37号 令和5年度市立小中学校教科用図書の採択について
- 4 出席委員  
島崎教育長、前田委員、壽委員、八田委員、田村委員
- 5 事務局出席者  
高野教育部長、田中教育部次長、富永教育部次長、青山教育総務課長、西同課長補佐、金城同課主任、佐藤同課主事、山田教職員室長、中野学校教育課長、中西同課指導主事、橋本児童生徒支援課長、藤原学校給食課長、二ノ宮生涯学習課長
- 6 会議を傍聴した者  
(1) 一般傍聴者 0人 (2) 市政記者等の傍聴者 0人
- 7 議事の経過 別紙のとおり

(議事の経過)

開会 教育長が8月定例会の開会を宣言

議題の公開／非公開 全て公開

6月定例会議事録承認 承認

教育長報告

○議案第37号 令和5年度市立小中学校教科用図書の採択について

【説明】

○中野学校教育課長 令和5年度市立小中学校教科用図書の採択について、教育委員会の議決を求めるものである。

次年度より、採択できるものは、小・中学校特別支援学級で使用する一般図書である。

小中学校の特別支援学級で使用する一般図書の調査研究の対象は、15冊である。

はじめに、本市教科用図書選定審議会の日程および答申に至る経緯について、令和4年度大津市教科用図書選定審議会は、本年6月2日から7月26日までに計3回開催し、6名の審議会委員の皆様には教科用図書の調査研究と推薦図書の選定をいただき、答申に至った。

次に、答申までの手続きについては、今年度も昨年度と同様に、本市の教科用図書採択の基本方針に沿って設定した観点について教科用図書調査研究会を設置し、部会で6月のおよそ1ヶ月間かけて調査・研究を行い、それぞれの特徴を審議票としてまとめた。7月には教科用図書選定審議会において、調査研究会から提出された審議票および県から提供された資料に基づき、実際に教科書を閲覧しながら審議会委員が研究を行った。また、教科書展示会を令和4年6月3日から7月1日まで、大津市生涯学習センターにて開催した。会場で市独自のアンケートを実施し、市民の皆様から寄せられたご意見についても、審議会委員や調査研究員に閲覧いただいている。

続いて、推薦図書の決定について、審議会において、小・中学校特別支援学級で使用する一般図書の推薦図書の決定にあたっては、今回調査研究した一般図書それぞれについて、特別支援学級の教科用図書として採択するにふさわしいと思う図書に○印を、ふさわしくないと思う図書に×印をつけていただいた。その評価結果については、参考資料にまとめている。

この評価結果に基づき、協議を行い、推薦図書が決定された。

審議会で議論された主な意見を紹介する。3冊議論になった一般図書がある。

まず、「るるぶマンガとクイズで楽しく学ぶ! 47都道府県」という図書であるが、これは「地図」の推薦図書に分類されているが、都道府県によって情報量に偏りがあり、学習の導入としてはよいが、「地図帳」として使用できるのかという議論がなされた。最終的には地図に表れている情報をわかりやすく図式化したり、特徴をイラスト風にしたりしているものとして捉えてはどうか、また特別支援学級の子どものニーズはさまざまであるため、こういった図書も選択肢の一つとして残したいという意見があり、推薦図書となった。

次に、「生理なんでもハンドブック セイリの味方スーパームーン」という図書であるが、教科(保健)の中の特定の一部分を扱った内容であり、教科書として採択することは相応しいのかという意見があったが、特定の分野だけを扱う図書であっても、その分野を理解するという意味であれば、使えるようにしてもよいのではないかと、という意見があり、この本についても最終的には出席した委員全員から評価されたというところである。

最後に「絵でわかるこどものせいかつずかん4 おつきあいのきほん」という図書であるが、この本についてはイラストや表記が中学生には幼すぎるのではないかと議論がなされた。一般図書を教科書として使用するとすると、学校の先生が子どもの特性や興味関心を考慮して選ぶことができるので、様々な障害や子どもの特性に合わせ、選択肢を広げるという観点で評価してよいのではないかと意見があり、推薦図書となった。

そういった経緯を踏まえ、答申について、議案資料にて説明する。

3 ページ別紙 1 は、令和 5 年度使用小中学校特別支援学級用教科用図書 推薦図書の一覧である。

4 ページ別紙 2 は、小学校の教科用図書である。小学校の各教科の教科用図書については、採択の年から 4 年間は同じものを使うということになっているため、令和元年度に採択した教科用図書を次年度も継続して使用することとなる。

5 ページ別紙 3 は、中学校の教科用図書である。中学校の各教科の教科用図書についても、採択の年から 4 年間は同じものを使うということになっているため、令和 2 年度に採択した教科用図書を次年度も継続して使用することとなる。

6 ページ資料 1 は令和 5 年度に小学校特別支援学級で使用する教科用図書、7 ページ資料 2 は同じく中学校特別支援学級で使用する教科用図書となる。

赤字で表記されている図書が次年度より新たに採択される予定の図書である。なお、推薦理由については、昨年度同様に評価結果をもってその理由にかえ、採択後に大津市ホームページで公表することとする。

このほかに、弱視学級の児童生徒に対しては、通常学級用の教科用図書を拡大した「拡大図書」や文字を点訳した「点字教科書」を使用できることとしている。

### 【質 疑】

○八田委員 今回、教科書を採択するにあたり、調査研究員が調査をされ、それを基に、審議会委員が評価をして、あがってきた答申については、最大限に尊重したいと思う。

私が実際に図書を見たところ、近年作られている図書は、デザイン性も優れており、子どもたちが楽しく学べるような工夫がされていると感じる。図書が追加されることによって、子どもたちの選択が広がるということはもちろんのこと、子どもたちが学ぶことが楽しいと感じられるような授業につながる図書が増えていくことを期待している。

○中野学校教育課長 今回、教科書の採択にあたって、さまざまな方向性をもって、評価がなされたところである。それぞれの教科書の内容の配列や分量が適切か、文章表現や資料の取扱い、色彩等が個々の児童・生徒にとって見やすく整理工夫されているか等について、調査研究が進められた。選定審議会でも、一般図書は教科書として作られたものではないので、ユニバーサルデザインのすべての条件を満たされているということはなかなか難しいが、特別支援の子どもニーズはさまざまであるので、選択肢をたくさん用意することが大事であるという視点から、議論されたところである。

○田村委員 審議会での表決結果について、委員は 1 名欠席であったのか。

○中野学校教育課長 1 名欠席である。

○田村委員 審議会の成立について、定数要件は要項等で定めているのか。

○中野学校教育課長 大津市教科用図書選定審議会規則第 5 条第 2 項において、「会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。」と定められている。委員の過半数が出席していれば会議が成立していることを、審議会の冒頭でも申し上げ、委員にも理解をいただいているところである。

○田村委員 議案資料、図書一覧表内に記載の程度 A～D はどういう意味か。

○中野学校教育課長 特別支援学級に在籍している児童生徒の障害の程度を表している。A から順に、程度が重くなっていく。

○田村委員 文部科学省が検定教科書として活用するものは程度 A ということで、障害の程度が比較的軽いということを意味しているのか。この程度に合わせて、推薦図書が区別されているが、その程度の判断は、担任教員がするのか、学校がするのか。

○中野学校教育課長 学校現場の教員が、児童生徒の状況に合わせて活用することとなる。

○田村委員 議案資料、推薦図書について、教科に偏りが見られるが、その点は、審議会、調査研究会の中でどのようなプロセスで選定されたのか。

○中野学校教育課長 理科の教科が多くあるが、以前使用していた図書の中で絶版・廃刊になっているものが多くあったため、今回多く推薦されている。社会、地図、道徳については、子どもたちに多様な対応ができるように、さまざまな資料の活用を優先して推薦している。

○田村委員 絶版になった際には、教科書採択の年度に関わらず、臨時的に採択する必要があると理解しているが、絶版になった時点から今回の採択までは、その図書については、代替の図書を追加せ

ずに運用していたのか。

○中野学校教育課長 そのとおりである。

○前田委員 選択肢が多く、それぞれの児童生徒の興味が引き出せるような教科書がたくさん用意されているほうがよいと思う。現場でも、その子にとってよりよいを選択してもらえるようにお願いしたい。

程度については、教科によって程度を変えるなど、その子の特性に合わせたものを選んでいるのか。

○中野学校教育課長 そのとおりである。それぞれの児童生徒に応じた個別指導計画に基づき、教科用図書を変更するなど、柔軟に活用している。

○前田委員 そういったきめ細かな対応をしていただくことによって、子どもの成長につながると思うので、引き続きお願いしたい。

○壽委員 一般に向けた教科用図書の展示をされたということで、アンケートは回答数が少なかったのか、そもそも来る人数が少なかったのか。

○中野学校教育課長 30名程度が回答されている。アンケートの主な意見として、参考になった、教科書を閲覧できるようにすることは大切だ、期間が短いのではないかなどがあった。アンケートの意見を記入せずに提出している方も多くいた。

○壽委員 審議会の議論の傾向など、採択にあたり参考になる点があれば教えていただきたい。

○中野学校教育課長 審議票には、もともと長所と短所を1つずつ記入するようにしていた。それぞれの個性が際立つという意見がある一方で、長所と短所が1つずつになることで、評価が均一になってしまい、評価しづらくなったという意見もあった。そのような意見を踏まえ、昨年度から、長所については、複数記入してもよいとしている。審議の観点から、この形式が望ましいかどうかについては、審議会の中でも話題になり、今後の研究の材料だと認識している。

**【採 決】** 可決

**閉会** 教育長が8月定例会の閉会を宣言